CLUBMAN RACE

2021 SUZUKA CLUB MAN RACE Round 2

2021 鈴鹿クラブマンレース Round 2 開催報告書

■開催概要

●シリーズ名称 ： 2021 鈴鹿クラブマンレースRound 2
●主催 ： 熱田レーシングクラブ（ARC）、鈴鹿モータースポーツクラブ（SMSC）
●協力 ： ARCN、KRHC、OCCK 、AASC、チーム淀
●競技 ： JAF公認・準国内格式　公認番号2021-2002
●会場 ： 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース（5.807km）
●開催レース ： 総参加台数／124台
スーパーFJ／23台
FIT 1.5 Challenge Cup／12台
クラブマンスポーツ／26台
CS2／8台
フォーミュラEnjoy／20台
FFチャレンジ／23台
●併催クラス ： MINI CHALLENGE JAPAN Round2（RACE3/RACE4）／12台
●開催日 ： 2021年5月22日（土）・23日（日）
●天候／路面 ： 晴／ドライ

★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2021/clubman/

■次回レース開催概要

●シリーズ名称： 2021 鈴鹿クラブマンレース Round3
●開催日 ： 2021年6月19日（土）、20日（日）
●主催 ： KRHC、SMSC
●会場 ： 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース（5.807km）
●開催クラス ： スーパーFJ（2レース）、FFチャレンジ、クラブマンスポーツ、CS2、Vitz

CSクラス、CS2クラス混走の60分耐久。ローリングスタートでレースは始まった

注目の60分耐久、MEC60が開催
New MINIも聖地・鈴鹿を走った!

全7戦、すべてが鈴鹿サーキット フルコースで行われる2021年のクラブマンレース。早くも第2戦が5月22日（土）、23日（日）の2日間に渡って開催されました。特別スポーツ走行が行われた22日（金）は終始、強い雨。多くの公式予選を実施した21日（土）は曇り。そして迎えた23日（日）は初夏を思わせる、汗ばむほどのレース日和となりました。

併催レースとして行われ、サーキットを熱くさせたのが初めてやってきたMINI CHALLENGE JAPANです。New MINIによるレースで、イギリスで製作されたレース専用車両によるJCWクラス、ナンバー付きによるCPSクラスが混走して、計2レースを行いました。

そして2020年は予定されながらもコロナ禍で実施できなかった、「MEC 60」がついに開催されました。CSクラス、CS2クラスの混走で各チーム1名以上、2名未満のドライバーで60分の耐久レースを戦い抜きます。レースは中盤あたりでセーフティカーが導入される波乱の展開に。各チーム1回3分間のピットインが義務付けられており、このタイミングがレース結果に如実に反映されることになりました。

また、盛り上がったのがスーパーFJクラス。居附明利を始めとした10代の若いルーキーが2021年から参戦をしていて、果敢に攻める姿勢がレースを盛り上げました。昨年から5連勝中の岡本大地を佐藤巧望が終盤で一時、逆転する場面も見られ、残りレースが実に楽しみです。

今回も併催レースを含めて100台以上がエントリー。入場前の検温など感染症対策を徹底しながら、予定されていたレースが実施されました。

MINI CHALLENGE JAPANが鈴鹿サーキットで初開催。パレードランも実施されるなど、関連イベント満載だった

■フォーミュラEnjoy Class

ポールポジションは大川文誠、続いて辰巳秀一、山根一人、永井秀和の順でグリッドに並んだ。辰巳がホールショットで好スタート。山根、大川、永井が追いかける。トップ争いは4台になり、トップの辰巳はじわじわと逃げ始める。5番手は間隔があき中嶋匠がつける。山根をパスして永井は2番手へとジャンプアップ。マイスターズ・カップのトップは総合9番手の森下吾郎、続いてRYUU MAO、さらに安橋徹となる。森下とRYUU MAOのバトルが激しくなると、ここに亀蔵も加わりマイスターズ・カップのバトルも面白くなる。終盤、大川は永井をパスして2番手へ。レースはそのまま辰巳が逃げ切った。マイスターズ・カップは総合7位の森下が勝者となった。

ポールポジションは大川文誠。終盤で永井秀和をパスし、大川は2位でフィニッシュした

（※総合表彰）辰巳秀一が安定した走りを披露。2位は大川文誠、3位は永井秀和。2位争いのバトルが最後まで繰り広げられた

■フォーミュラEnjoy Class

※マイスターズ・カップ表彰

勝利した森下吾郎と2位のRYUU MAOとの差は0秒314とわずか。3位は安橋徹となった

■FFチャレンジ Class

ポールポジションは松下裕一。2番グリッドは林大輔、3番グリッドは開勇紀。松下が好スタートでホールショットを奪う。これを開、林大輔、中村拓矢の順で追う。松下と開はテールtoノーズになり、3番手には林が走行する。オープニングラップから開は、果敢にディフェンディングチャンピオンの松下を攻める。林が開をパスして2番手へ。4番手は中村、そして住直哉が追う。4周目で上位を走る中村がコースアウト。住と開が3番手を争い、トップの松下と林のバトルが続く。松下はポールtoウィンとなり、まさに余裕の走りで勝利。林大輔が2位となり、兄弟での表彰台を狙った林陽介は少し届かず4位となった。

ポールtoウィンを決めた松下裕一。前半では開勇紀にやや迫られる場面もあったが、終わってみれば完勝だった

1位は松下裕一、2位は林大輔、3位は住直哉。4位の林陽介は、兄弟そろっての表彰台にあと一歩届かず

■MEC60（Clubman Sport 60 Minutes Endurance Challenge）

CS2クラスの＃28がポールポジションからスタート。だが、元嶋成弥が第1ドライバーを務める＃23がホールショットを奪う。CSクラスは総合8位を走る＃1の大八木龍一郎がトップを走る。＃23の元嶋がトップを快走すると、混沌とするCSクラスは＃1の大八木、＃5の中里紀夫、＃7のバイエルン松尾らのトップ争いに膨れ上がる。レースが残り32分になるころ、＃19のコースアウトによりセーフティカーが導入される。これを受けて数多くのマシンがピットインするも、トップ2の＃23、＃28は走行を続ける。レースはこの選択が大きな分かれ目となり、セーフティランが解除され、＃23、＃28がピットインすると＃46の第2ドライバー、中村賢明がトップへ。＃55のTOMISANは2番手につけて猛追。残り5分で約1.5秒差になるが、＃46が逃げ切ってCS2クラスで勝利。CSクラスは＃7の大八木となった。

優勝したCS2クラスの＃46。3番グリッドからスタートすると、終始、安定した落ち着いた走りを見せた

（CSクラス表彰）CSクラスを制したのは一人で60分を走り切った＃1の大八木龍一郎。中里紀夫とのバトルを制した

■MEC60（Clubman Sport 60 Minutes Endurance Challenge）

※CS2 クラスの表彰

総合優勝を決めたCS2クラスの＃46、松本吉章・中村賢明。2位の＃55、TOMISANの猛追も見ごたえがあった

■MINI 決勝 RACE3

鈴木建自がポールポジションを獲得。鈴木を含めた平田雅士、阿部良太のJCWクラス3台がグリッド上位に陣取り、9番グリッドスタートの古田聡がCPSクラスの1番手でレースは開始。2番グリッドの平田がホールショットを奪うと、CPSクラスは増田直人が先頭をキープする。2周目の1コーナーで鈴木が痛恨のスピンを喫してしまう。平田が好調にトップを快走するなか、増田、古田、三浦康司がCPSクラスのトップを懸けてバトルを行う。平田は阿部を大きく引き離して勝利。CPSクラスは増田との差を徐々に広げて、古田が見事に逃げ切りに成功した。

優勝した2番グリッドスタートの平田雅士。ホールショットを奪うとの、そのままトップを譲らなかった

(CPSクラス表彰)勝利した古田聡、2位は増田直人、3位は三浦康司。三つ巴のバトルはレースを終始、盛り上げていた

■MINI 決勝 RACE3

※JCWクラスの表彰

勝利した平田雅士は、2位の阿部良太と53秒824もの大差をつけての完勝となった

■スーパーFJ Class

ポールポジションの岡本大地がホールショットを獲得。佐藤巧望、居附明利、上野大哲とルーキーも含めたフレッシュな面々が上位陣を形成した。岡本、佐藤、上野に続き森山冬星、冨田自然も先頭集団に加わってくる。5周目で居附と森山が接触。これにより上野が3番手、冨田が4番手につける。トップの岡本は独走状態となる。するとコース上でマシンが止まってしまい、7周目でセーフティカーが導入される。岡本、佐藤、冨田の順でセーフティカーランが続き、解除されてレースは10周目へ。11周目で佐藤はついに前へ。だが、ファイナルラップのシケインで岡本は佐藤をパス。落ち着いた逆転劇を披露した岡本が勝利した。

レースを盛り上げた2位の佐藤巧望。昨年から5連勝中だった岡本をパス、勝利にあと一歩まで近づいた

勝者は岡本大地、2位は佐藤巧望、3位は上野大哲。新顔が多く参戦し、今シーズンの残りレースへの期待が高まった

■FIT 1.5 Challenge Cup Class

岡田拓二がポールポジション、前回レースの勝者、西尾和早は2番グリッドからスタート。岡田がホールショットを奪い、西尾がテールtoノーズで追うと、やや遅れて3番手にやや藤田修三、続いて山内剛志、松尾充晃が追う。6周目で西尾が岡田をパスしてトップへ躍り出る。西尾、岡田は終盤まで激しくやりあうが、じわじわとトップの西尾がリードを広げていく。最終的には西尾は岡田とのタイムギャップを1秒676まで築き、盤石の状態でトップチェッカー。ポールポジションこそ譲ったものの、西尾はこれで開幕から2連勝を飾った。

ポールポジションは岡田拓二だがウィナーは2番グリッドの西尾和早（写真左）となった

優勝は西尾和早、2位に岡田拓二。山内剛志が3位となった

■MINI 決勝 RACE4

ポールポジションからRACE3の勝者、平田雅士がスタート。続いて阿部良太、鈴木建自が続く。CPSクラスは三尾修、奥村浩一、三浦康司がグリッド上位で並んだ。レースは平田が好スタート、阿部をパスして鈴木が2番手になる。CPSクラスは三浦、増田直人、三尾のオーダーでオープニングラップを終える。CPSクラスはトップを走る三浦に増田が接近してくる。古田聡はクラス3番手まで上げ、三浦や増田を捉え始める。平田は前回レースの勢いもそのままに独走して、鈴鹿で2戦2勝をマーク。2位は鈴木、3位は阿部となった。CPSクラスはRACE3の悔しさを晴らすように増田が勝利を飾った。

CPSクラスで勝利した増田直人。RACE4では12番グリッドスタートだったがRACE3の雪辱を果たした

(CPSクラス表彰)RACE3を制した古田聡とのバトルを制した増田直人が勝利。3位表彰台は三浦康司となった

■MINI 決勝 RACE4

※JCWクラスの表彰

平田雅士はRACE3に続いて2連勝。いずれも危なげない走りを披露した

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光ったドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

スーパーFJ Classで優勝。
今シーズンも好調なディフェンディングチャンピオン

岡本 大地 選手（FTK・レヴレーシングガレージ）

セーフティーカーの走行解除後、いったん2番手となったが逆転。昨年からの連勝を6に伸ばした岡本大地選手

Q：昨日の予選から振り返っていただけますか。
「（今まで10周が多かったけど）今日は12周ということで燃料が足りるか心配でした。昨日は路面温度が低く、今日は暑いけど突風が吹いたり。難しかったですね」

Q：2番手を走行しながらの終盤でした。
「佐藤選手の調子が良かったですが、自分も落ち着いて走れました」

Q：最後はシケインで逆転。狙い通りですか？
「行けるところがあれば、早く前に出たかったけどあそこしかなかったです。必死でしたし、なんとか勝てました」